

うわのたいら 上野平遺跡

－むつ湾を臨む塩づくりの遺跡－

所在地：むつ市川内町大字宿野部字上野平
調査機関：青森県埋蔵文化財調査センター
調査期間：令和2年5月12日～7月17日
調査原因：国道338号交通安全対策事業

遺跡の概要

上野平遺跡はむつ市役所川内支庁舎の南西約6km、宿野部川右岸の陸奥湾に面した高台に位置し、天気の良い日には対岸に岩木山を望むことができます。昭和51年の橋善光氏による調査などでは、平安時代の土師器・擦文土器・製塩土器や中世の人骨・珠洲焼の播鉢などが出土しており、特に平安時代の塩づくりに関する遺構・遺物が注目を集めました。

今回の調査の結果、平安時代の竪穴建物跡や同時代もしくはそれ以降と思われる土坑・焼土遺構が確認され、平安時代の土師器・土製支脚や縄文土器・石器が出土しました。

遺構の概要

調査区北東隅から平安時代の竪穴建物跡が1棟見つかりました。カマドを含む建物跡北半は調査区外に延びています。この建物跡は土層断面観察から、縮小して建て替えられたものと考えられます。

土坑は3基、焼土遺構は4基見つかりました。これらの遺構は検出層位等から平安時代もしくはそれ以降の可能性があります。土坑の1つは、堆積土の上位に白頭山－苫小牧火山灰と思われる火山灰が堆積していました。

遺物の概要

遺物は平安時代の土師器・土製支脚や縄文土器・石器が段ボール箱で4箱出土しました。その多くは竪穴建物跡から出土したもので、それ以外からの出土はまばらでした。

遺跡の特徴

過去の調査では、平安時代の塩づくりに関連する遺構・遺物は確認されていたものの、当時の人々が住んでいた建物跡や場所は確認されていませんでした。今回検出された竪穴建物跡が、過去の調査で確認された塩づくりの遺構・遺物と関連をもつのか、今後の検討課題となります。

(平山 明寿)



竪穴建物跡調査状況（南から）